

【学校の教育目標】 ふるさと大山を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成（小・中学校共通）
～高い志を持ち、主体的に学習や運動に取り組む生徒の育成（中学校）～

【育成を目指す資質・能力】 対話力の向上

資質・能力との関連

知識・技能

思考・判断力

表現力

涵養・人間性・社会性

担当

重点目標 達成指標

重点的取組

取組指標

検証・改善フローシート

月ごとのや学期途中での検証・改善に繰り返し使用できます。

確認・検証・改善【 1 回目】

8月 6日(水)実施

【学校の教育目標】		【育成を目指す資質・能力】				【評価】 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率				【改善方法】				【学校関係者評価】						
重 点 目 標	達成指標	重点的取組	取組指標	知識・技能	思考・判断力	表現力	涵養・人間性・社会性	担当	取組指標に対する 取組状況の確認		達成指標に対する 達成状況の確認		評価	改善方法	指標別 3 2 1	総合 全般	考察	評価		
									取組状況(エビデンス)	実施率	達成状況(エビデンス)	達成率								
基礎的な知識や技能の定着	定期テスト（5教科）における問題データベースから出題する基礎・基本問題の平均正答率 70%以上	学校	○ 基礎・基本の定着	○ 2週間に1回問題データベースやキュビナを使った単元テストを実施	○			健やかな体	2週間に1回問題データベースやキュビナを使った単元テストを実施 「できた」と回答した教員3/5 「半分くらいできた」と回答した教員2/5	60%	定期テスト5教科における基礎・基本問題の正答率 期末テスト 62%	88%	○定期テスト5教科における基礎・基本問題の正答率についての取り組みのうち、2週間に1回の単元テストは概ね実施できおり、「基礎・基本の定着」を意識できるため妥当である。定期テストの基礎・基本問題の正答率が62%と概ね身についているといえるため達成指標となりできるようになつた。』と答えた生徒46%	3	○取り組みの継続					
			○ 文章構成や適切なことはを選ぶ力の育成	○ 朝学習の時間に読書を行い、週末に読書日記を作成させる	○				7・8生は計画通りに朝読書と読書日記を実施でき、9年生は別の朝学習課題を実施した	66%	生徒アンケート 「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった。」と答えた生徒46%	61%	○生徒アンケートで「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった。」と答える生徒が46%であったことから、7・8生の朝読書と読書日記のみでは妥当ではないと考える。また、文章構成を実感させる機会が少なかったための数値であると推測する。	2	○文章構成の参考にするために、読書日記の内容で構成の良い文章を掲示し、自分のものと常に比較できるようにする。さらに『おすすめの本の紹介』作成を月に1回行う。』を取組指標に追加する。					
	生徒アンケートで「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった」と答える生徒 75%以上	家庭	○ 家庭内での会話の推進	○ 保護者は、毎日子どもとの会話を心掛け実践する。	○	○			「できた」と回答した保護者16/26 「半分くらいできた」と回答した保護者10/26	62%				○取り組みの継続						
			○ あいさつ+声かけを行う	○ 地域でのあいさつに声掛けをプラスして行い、会話する。	○	○								○生徒アンケートで「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった。」は60%以上に下方修正する。						
表現力の向上	期末テスト（全教科）における記述式回答の回答率 80%以上	学校	○ 短学活の充実	○ 毎日の短学活に「対話」させる場面を位置付ける	○			確かな学び	毎日の短学活に「対話」させる場面を位置付けができる学年 3/3	# # #	期末テスト（全教科）における記述式回答回答率 80%	# # #	○定期テストの「記述式問題の解答率」及び、「思考・判断・表現力を問う記述式問題の正答率」については、各教科とも比較的良い。解答内容も教科により偏りはあるものの、よく取り組めている。それが、学力テストの結果に反映されているものと考える。	4	○取り組みの継続。					
			○ 生徒活動の充実	○ 週1回の生徒活動の時間に問題解決的な展開を仕組み、全校生徒で意見交換をする	○	○			生徒活動の回数 10回 全校生徒で意見交換をさせた回数 3回	# # #	期末テスト（全教科）における思考力・判断力・表現力を問う記述式問題の正答率 65%	# # #	○短学活・各教科・生徒活動等、対話的な学びの場の設定を積極的に推奨してきた。「自分の考えを友だちに伝える。」ことは出来ているが、「深めたりする」の部分でA評価にチェック出来なかつたためと思われる。B評価肯定的回答44%をA評価に上げる取り組みが必要である。	4	○取り組みの継続。					
	生徒アンケートで「小集団（ペア）の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり深めたりすることができた」と答える生徒 75%以上	家庭	○ 家庭学習の確立	○ 保護者は、学期に1回以上、家庭学習時間の点検・評価を行う	○				「できた」と回答した保護者12/26 「半分くらいできた」と回答した保護者12/26	# # #	生徒アンケート 「小集団（ペア）の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり深めたりすることができた」と答えた生徒 52%	48%	生徒アンケート 「小集団（ペア）の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり深めたりすることができた」と答えた生徒 52%	69%	○生徒アンケート「話し合い活動を通して、自分の考えがより明確になり、相手の意見の良さが分かつたり、新しい解決の糸口を見つかりできるようになった」に変更し、75%以上の達成を目指す。	2	○重点的取組を「対話のレベルの習得」に変更する。			
			○ 表現する場の設定	○ 月1回の「読み聞かせ」終了後、感想発表や意見交換の場を設定する	○				読み聞かせの回数 4 感想発表や意見交換の場を設定した回数 4	# # #				○対話レベルを「聞くこと」「話すこと」スキル表により、現在の自分のレベル・次に目標レベルを明確化する。						
他者との協働	生徒アンケートで「いじめや差別をしない・許さない生徒育成のための生徒会活動の実践 85%以上	学校	○ いじめや差別をしない・許さない生徒育成のための生徒会活動の実践	○ 大山中学校人権宣言及び、各学級の則に関する振り返りの場を学期に1回以上設定する。	○			豊かな心	人権標語の作成と優秀作品の選定を行ったが、大山中学校人権宣言及び、各学級の則に関する振り返りはできていない	0%	生徒アンケート 「いじめや差別をしない・許さない生活ができた」と答えた生徒 69%	81%	○「いじめや差別をしない・許さない生徒育成のための生徒会活動」は、目標85%以上に対し、達成状況は69%であった。引き続き、生徒会活動の活性化のために、達成指標及び取組指標の活用は妥当である。	3	○「いじめや差別をしない・許さない生徒育成について、下方修正して2学期は80%にする。また、取組指標の改善として、①2学期はじめに「人権宣言に関する則の見直し」を行い人権感覚の共通認識を持たせたうえで、②月1回の「人権宣言アンケート」をロイノートで行いデータの推移を可視化する。					
			○ 地域貢献活動の実践	○ 生徒会は、地域貢献活動を学期に1回以上企画する。地域からの要請があった場合、呼びかけを行う。	○				6月に観光案内所周辺の清掃作業を実施し、感想の交流を行った。	# # #	生徒アンケート 「大山町の一員として、故郷に貢献できる活動に関わりたい」と答えた生徒 35%	70%	○「地域貢献活動の実践」は、目標50%以上に対し、生徒アンケートの達成状況は35%であった。達成状況の改善を目指すことに加え、保護者への周知徹底の取り組みを検証するために、引き続き、同様の達成指標及び取組指標を活用する。	2	○故郷に貢献できる活動については、ボランティアアンケート（仮称）を生徒に配布し、活動回数を記録することを取り組み指標に追加する。保護者と連携した生徒への意識付けについては、取り組みを継続する。					
	生徒アンケートで「大山町の一員として、故郷に貢献できる活動に関わりたい」と答える生徒 50%以上	家庭	○ 地域貢献活動への参加協力	○ 保護者は、生徒に地域貢献活動の募集があった場合、参加の声掛けや参加体制を整える。	○				「できた」と回答した保護者9/26 「半分くらいできた」と回答した保護者12/26	35%										
			○ 地域貢献活動の場の提供	○ 地域は、生徒が参加できる地域貢献活動をCSを通じて学期に1回以上提供する。	○				地域から「草刈り」1回、「地域食堂」4回のボランティア募集があった。	# # #										
「働き方改革の推進」	各月の目標退勤時間内に退勤する職員 75%以上	学校等	○ チームや学年部を活用した業務の見直し	○ 管理職は月1回時間外勤務の状況把握と要因の検証を運営委員会で行うとともに、学期に1回の個人面談を行う				管理職	5月下旬に全職員を対象に面談を実施した月初めの運営委員会において、前年度や前月との比較データを提示し、考えられる要因についての意見交換を行った。	# # #	各月の目標退勤時間内退勤達成率 4月 83.8% 5月 94.0% 6月 94.3% 7月 87.9% 平均 90.0%	# # #	○目標退勤時間内の退勤達成率が高いのは、この取り組みの成果であると評価できる。一方で、達成率の上昇は「時間外勤務の縮減」を実感できていない教職員がいることも事実であるが、推移をみていくためにも達成指標と取り組みは妥当である。	4	○校内の取り組みは継続して行うが、「効果・効率的な働き方に努めた結果「時間外勤務時間が縮減した」実感を持つ職員調査は、「効果・効率的な働き方」ができなかつたのか、努めたが実感できないのかを明確にしていくため、質問を2つに分ける。さらに回答の平均を下方修正する。					
			○ 地域の学校支援活動の充実	○ 学期に1回以上、授業や行事での補助人材を提供する。※学校運営協議会にて地域人材の情報提供をする。					8年生「タムについての学習」でタム管理支所から4名のゲストティーチャーが来校	# # #	効果・効率的な働き方に努めた結果「時間外勤務時間が縮減した」実感を持つ職員 2/8 25%	31%	「効果・効率的な働き方」に努めた「時間外勤務時間が縮減した」実感が持てる2つの回答の平均60%	1	「効果・効率的な働き方」に努めた「時間外勤務時間が縮減した」実感が持てる2つの回答の平均60%					